

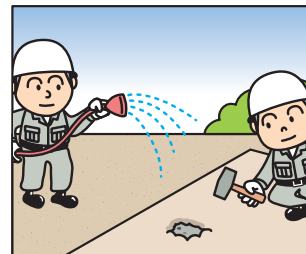
表面補修工 施工手順

【施工方法】 標準製品ふるい分けオーバーレイ補修方式(クラック・剥離箇所表面補修)

◎使用量:1㎡当り1袋(20kg/㎡) ◎まき出し・仕上り厚さ5~10mm

① 表面洗浄

破損・剥離が発生している劣化箇所をハンマーを使用して除去した後、水で表面洗浄を行います。

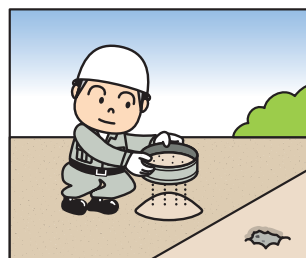


② 標準製品ふるい分け

標準製品(20kg紙袋)を園芸用ふるいにかけて目の細かい補修製品にします。

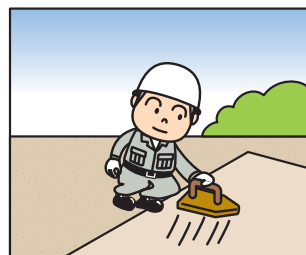
(ふるい目安:2メッシュ)

(ふるい後の粒径:約1mm)



③ 補修製品敷き均し(コテ仕上げ)

補修製品を破損・剥離箇所 $t=5\sim 10\text{mm}$ 程度まき出し、表面に凹凸が無いようにコテ仕上げを行います。

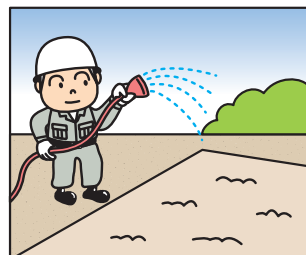


④ 塩化マグネシウム水溶液 基本散水

補修した箇所をより強固にするために、塩化マグネシウム水溶液を散水します。

(塩化マグネシウム水溶液 重量比 水:塩化マグネシウム=3:1)

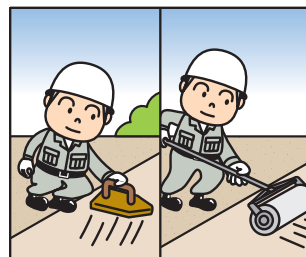
(注) 標準製品の施工と異なり、敷き均しの厚みが薄いため、散水時に補修製品が流れないように噴霧器を使用し、数回に分けて散水を行ってください。



⑤ 転圧(コテ・クロス貼りローラ使用)

散水後、10分間程度待ち、表面に水が引いたことを確認してからコテ・クロス貼りローラで転圧します。コテを使用の場合は、上からたたくようにして仕上げてください。

(注) 表面に水が残っている状態で転圧した場合、白華現象の原因になる可能性がありますので、必ず表面の水が引いたことを確認してから転圧を行ってください。



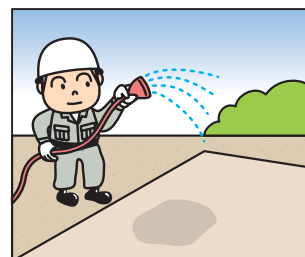
表面補修工 施工手順

⑥ 塩化マグネシウム水溶液 養生散水

転圧完了後、塩化マグネシウム水溶液を養生散水してください。

(塩化マグネシウム水溶液 重量比 水:塩化マグネシウム=3:1)

(注) 基本散水と同様に噴霧器を使用し、数回に分けて散水を行ってください。



Before



After



E225SKP001

塩化マグネシウム(商品名: サニーキーパー)

25kg入/袋

施工上の注意事項

- 雨天時の施工は、表面強度を低下させ、剥離やクラックの原因となりますので、避けてください。
- 猛暑時(外気温 30℃以上)や強風時の施工は、急激な乾燥によりドライアウトや乾燥収縮によるクラックが発生する恐れがありますので避けてください。やむをえず施工される場合はこまめな養生散水やシートなどで急激な乾燥を避けてください。
- 厳冬期(外気温 5℃以下)の場合は施工を避けてください。
- 施工後急激な温度低下(外気温 5℃以下)が予想される場合は、保湿マットなどで養生して凍害を避けてください。
- コテ仕上げは、木コテ又はプラスチックコテを使用して上から押さえながら仕上げてください。また、金コテは使用しないでください。金コテで擦って仕上げますと表面の強度が低下して、施工後に表面剥離が生じることがあります。
- 施工翌日に降雨が予想される場合は、表面保護のため、シート養生を行ってください。
- 施工後しばらくは、表面に砂が浮き出しますが、機能などの問題はありません。
- 施工端部の割れ防止として、見切り板やレンガなどでの保護をお勧めします。
- 表面が摩耗しますので駐車場への使用は避けてください。
- 雨垂れ、水滴などが当たる部分は、表面に穴が開くなどの侵食が生じます。雨樋の設置や捨石などの対策を施してください。

安全上の注意事項

- 施工時は材料が直接肌に触れないように、保護メガネ、保護手袋、保護マスクを使用してください。
- 万一目に入った際は、目を擦らないできれいな水で十分洗浄し、医師の診断を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合はきれいな水でよく口をすすぎ、直ちに医師の診断を受けてください。

その他の注意事項

- 固化材にセメント類を使わずに、自然土の風合いをそのまま残しておりますので強く擦ると表面の砂が取れます。
- 固化材の海水ミネラルの影響で経時で白華することがありますが、機能などの問題はありません。
- 日陰など湿潤な場所はコケなどが発生することがあります。
- 自然土を使用していますので、ロットにより多少色の違いがあります。
- 本製品は湿気のない場所で保管し、開封後はお早めにご使用ください。
- 本製品は真砂(加工砂)を主成分とし、セメントを一切使用しておりません。天然のにがり成分(酸化マグネシウム)で自然土を固めております。そのため、自然現象(凍上・凍結融解作用・豪雨など)により、施工表面に竹繊維の剥離、浮砂、風化、侵食、クラック、剥離などが生じることがあります。自然な土の風合いとしてご理解ください。